

ろうさい病院つうしん

病院情報誌 平成20年度 第1号 平成20年4月1日発行

発行所:中部ろうさい病院

〒455-8530

名古屋市港区港明1-10-6

TEL: 052-652-5511

FAX: 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>

「新病院完成に際して」

副院長 佐野 隆久



本年3月末を持ちまして当院の全面改築工事が完成いたしました。延床面積約44,400m² 9階建、ステンドグラスと陶板画がいやしの空間を醸し出す正面玄関、約800台の駐車場を持つ新病院になりました。

機構本部の増改築工事のGOサインが発表され、新病院建設プロジェクトチームが発足したのが平成13年8月でした。

新病院の建築の基本方針は

1. 病院機能の充実化

患者様中心の医療サービスを最優先した病院、地域の中核病院としての機能整備、スタッフが活動しやすい機能的な施設構成、高度医療情報化社会を見据えた設備

2. アメニティの確保

ゆとりあるスペースの確保、やすらぎを感じられるインテリア、プライバシーの確保

3. 環境への配慮

環境負荷低減と省エネルギーを徹底したエコホスピタルの実現、周辺地域に対する環境保全と景観形成でした。この方針に合致した病院が出来上りました。

工事期間中にはいろいろな問題がありました。地盤の脆弱性、建築費の減額、ベッドの配分、アスペストなどの問題も担当職員各位の努力と熱意により解決され、今日に到達することができました。

地域の医療機関の先生方には長期に亘りご迷惑をお掛けいたしました。これまでの皆様の御指導、御後援には感謝いたすばかりです。

新病院完成にて病院機能のハードは完成いたしました。これからはソフトの充実が必要です。職員一同新たな決意を持ち日々の診療看護に邁進いたします。

内視鏡画像診断部の設立にむけて

消化器科副部長 中江 治道



消化器内視鏡医療の著しい進歩に従ってその診療技術は多岐にわたり、複雑化してきました。消化器癌に対する内視鏡治療をはじめとして、消化器内視鏡の必要性はますます高まってきています。また、医療内容の情報開示と標準化が求められる厳しい時代もあります。一概に内視鏡医といっても、それぞれの修練過程の違いによって得意な技術も異なります。従って、個の力で現在の内視鏡医療に対応することは困難でありチームが必要となっていました。

私が平成15年7月に消化器科に着任した時、内視鏡担当医は部長2名、研修医2名、私の合計5名で、内視鏡室専属の看護師はいませんでした。スタッフの数もファイバースコープの数も少なく、内視鏡検査を毎日は行えない状況でした。その後、少しづつ改善され、毎日の内視鏡検査や緊急内視鏡検査にも対応できるようになりました。平成18年11月に新病院移転に伴い内視鏡室も一新され、現在は村瀬先生を筆頭に7名の医師と4名の専属看護師（内視鏡技師2名）のチームで対応しています（当院で研修した研修医がこの3年間で3名消化器科のスタッフになってくれたことは大きな喜びです）。内視鏡センター内に検査室数は現在2室ですが今後3室にする予定です。また、ERCPなどは現在は放射線部の透視室を兼用していますが、透視検査室を内視鏡センター内に造設する予定です。処置および休憩室も1室設けています。検査が終了しますと説明室でファイリングシステムの内視鏡画像を使い説明します。現在の設備は上部消化管汎用スコープ10本（うち1本は2チャンネル、うち2本は経鼻内視鏡）、十二指腸用汎用スコープ2本、大腸用スコープ5本です。平成15年当時と比較すればスコープの数も増え、

各種新しい機器も格段に充実しました。機器整備の改善とスタッフの増員に伴い、内視鏡件数も増加しています。平成15年度の内視鏡件数は、上部内視鏡 約2500件、下部内視鏡 約600件、ERCP 約30件でしたが、平成19年度では、上部内視鏡 約3500件、下部内視鏡 約1200件、ERCP 約150件でした（グラフ参照）。さらに、平成19年12月には日本消化器内視鏡学会より指導施設に認定されました。

しかし、当院の内視鏡画像診断部の確立にはまだまだ問題点があります。機器の管理やスタッフの問題です。多くの機器を計画的に更新・整備し新しい機器をいち早く導入することは、予算の問題もありなかなか困難な状況です。また、日本消化器内視鏡学会認定の指導医、専門医、認定技師の育成も一朝一夕にはまいりませんし、患者1人に看護師1人の看護体制や内視鏡医の増員も簡単ではありません。

今後もチーム全員で力をあわせ、また個々が日々精進しスキルアップすることで内視鏡室全体のレベルアップを図るつもりです。そして「常に安心して、最先端の診断・治療を受けていただける内視鏡画像診断部」ができあがればと考えています。まだまだ発展途上の我々ですが、地域医療のため一生懸命努力していきますので今後ともよろしくお願いします。



消化器科 医師診察予定表 ◎部長 ○副部長

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|----------|------------------------------|---------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-----------------|
| 内科 新来 | 交代制 | 交代制 | ◎河村 孝彦 | 交代制 | 交代制 |
| 消化器科(午前) | 尾関 雅靖 細野 功 (1400~1600) | ◎村瀬 賢一 森本 剛彦 ◎村瀬 賢一 | ◎村瀬 賢一 内山 功子 内山功子or森本剛彦 | ◎村瀬 賢一 胃ろう外来(052-652-5950) | ○中江 治道 山田 誠吾 |
| | | | | | |

坐骨神経痛 ー診断・治療に苦慮するケースー

整形外科副部長 伊藤 圭吾



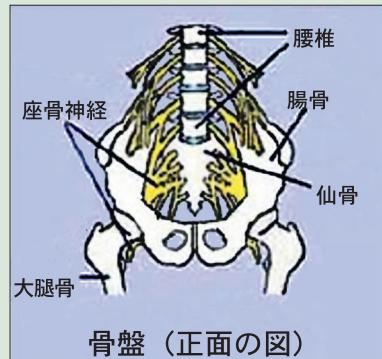
坐骨神経痛は日常よく遭遇する病態ですが、原因としては腰椎部由来のことがほとんどです。神経に異常が生じ、痛みをだしていることが最も多い原因です。椎間板が突出し神経を圧迫する椎間板ヘルニアや、骨棘や靭帯肥厚を伴い神経を全周性に圧迫する脊柱管狭窄症が2大原因となります。

診断には、まずレントゲン写真を撮影し脊椎、椎間板の状態を観察します。次に神経の状態を観察するためMRIを撮影します。神経が脊柱管内で圧迫されているようないわゆる通常の椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症ではこれで診断がつかることがほとんどです。

治療としてはNSAIDs（非ステロイド性抗炎症薬）、プロスタグランдин製剤、仙骨硬膜外ブロックなどの保存療法が奏効する場合が多いです。しかし、ヘルニアが脊柱管の外側に飛び出て神経を圧迫したり（外側型椎間板ヘルニア）、脊椎が側方に傾き関節突起で神経を突き上げたり（変性側彎症）、仙骨と腰椎横突起の間で神経を挟み込んだり（Far-out症候群）して、脊柱管の外で圧迫されているような場合には診断に苦慮することも少なくありません。この場合、椎間板造影や神経根造影などで診断を進めていきます。当院では、造影検査の際に局所麻酔剤とステロイドを併用したブロック療法

を同時に行っています。最終的には手術となる方も多くいらっしゃいますが、ヘルニアの場合は関節の変形と異なり、自然に縮小する可能性もありますので、これを期待した保存療法を治療の主体としてあります。当院整形外科の2007年度の脊椎外科手術件数は約500件と、全国でも指折りの症例数でした。しかし、他院と比べて、いわゆる椎間板ヘルニアの占める割合は約20%と多くありません。これは当院整形外科入院患者の椎間板ヘルニアの約半数が保存療法のみで加療できていることに由来します。

外来保存療法の無効時に、即手術とは限りません。しっかりとした診断、原因に基づいた治療方法の選択を心がけてあります。治療に難渋される症例がございましたら、お気軽にご相談ください。



整形外科 医師診察予定表 ●副院長 ◎部長 ○副部長

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|------|---|--|--|--|--|
| 整形外科 | ◎湯川 泰紹(脊椎) ○伊藤 圭吾(脊椎) 神原 俊輔(一般) 町野 正明(一般) (1,3,5週) 塩浦(リウマチ) | ◎岡 義春(一般) ◎坂野 真土(関節) 神原 俊輔(一般) 木下 晋(一般) | ●加藤 文彦(脊椎) 寺島 照雄(関節) 中島 宏彰(脊椎) 木下 晋(一般) | ◎岡 義春(一般) ◎湯川 泰紹(脊椎) ○伊藤 圭吾(脊椎) 町野 正明(一般) (若尾) | ●加藤 文彦(脊椎) ◎坂野 真土(関節) 寺島 照雄(関節) 中島 宏彰(脊椎) (平野) |

連携室だより

平成19年度中部ろうさい病院 病診連携システム運営協議会 ～ご報告～

中部ろうさい病院病診連携システムの円滑な推進を図るため、平成20年2月9日(土)に名古屋ガーデンパレスにて運営協議会を開催致しました。

あいにくの大雪であ足元が悪いにもかかわらず、委員の方々にはご出席いただき、多数の貴重なご意見を賜りました。今後の当院の課題とさせていただきたいと思います。

また、運営協議会終了後に登録医の先生方と親睦を深めるため、意見交換会を開催致しました。約2時間にわたり有意義な時間を過ごさせていただきました。

ご多忙の中出席された先生方にこの場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

時間外MRI検査

勤労者の方など平日の時間内に来院できない方のために、当院では土曜日・日曜日・平日の時間外もMRI撮影を行ってあります。(※ただし、単純MRI撮影に限ります)

- 検査結果は約2日程度で送付いたします。
- まずは地域医療連携室へお電話ください。すぐに仮予約が可能です。

電話 052-652-5950 (直通)

●検査可能時間

土・日 9:30~12:00
月・水・金 17:00~18:00 (祝日は休診)

※医師の立会い、施術、投薬、介助等が必要な場合は検査の施行が出来ませんのでご了承ください。

※当院ホームページからも放射線科検査申込票をダウンロードすることができます。

医師交代

☆辞職(平成20年3月31日付)

伊藤 裕一 (泌尿器科部長)
鈴木 聖子 (小児科副部長)
高岡 有理 (小児科医師)
堀江 裕美子 (整形外科医師)
松原 功明 (脳神経外科医師)
土井 健司 (麻酔科医師)
朝野 泰成 (心療内科医師)

野村 篤史 (腎臓内科医師)
松下 明弘 (呼吸器内科医師)
細野 功 (消化器科医師)
山田 誠吾 (消化器科医師)
加藤 健宏 (外科医師)
木下 晋 (整形外科医師)
大井 祥恵 (脳神経外科医師)
龍華 由江 (泌尿器科医師)
成田 佳代 (産婦人科医師)
伊藤 理恵 (眼科医師)
池田 篤彦 (耳鼻咽喉科医師)
藤掛 数馬 (麻酔科医師)
町野 麻美 (麻酔科医師)
山下 真 (心療内科医師)

☆採用(平成20年4月1日付)

加藤 一夫 (病理科部長)
中島 英太郎 (代謝内分泌内科部長)
大木 隆史 (小児科副部長)
加藤 文一 (一般内科医)
今峰 ルイ (代謝内分泌内科医師)

室長: 小林 建仁 (副院长)

佐野 隆久 (副院长)

事務担当: 中村祐子・金井久実

☆地域医療連携室 (平日8:15~19:30)

052-652-5950 (TEL)

052-652-5716 (FAX)